

工事 夕々 1 ム
昭和七年
新年號

○阿賀野川閘門通水 新潟縣阿賀野川改修工事の内小阿賀閘門及海老瀧川水門工事は漸く此程竣功し十二月末通水。

○日比谷圖書館改築 市立日比谷圖書館が既に改築期至つてゐるので市財務局建築課では明年度豫算に100萬圓を計上しそうが改築を爲すべく財源捻出に苦心してゐる。

○摺子發電所竣工 宇治電氣の新設になる奈良縣北山川水系の同發電所は此程竣工した。出力最大 740 K.W. である。

○箱根の片隧道竣工 先に本誌に詳報した箱根塔澤湯本間の国道片隧道は此程美事に完成した。

○鐵道省廩舎の建築は豫算の都合で繰延となつてゐるが先頃失業救濟事業費として3,000萬圓の公債發行が認可されたのでその一部を本廩舎新築費(勞力)として支出することとなり今春四月頃から土工關係諸工事に着手すると。

り再びロシアにさきに勞農政府の招聘に応じ發達せる我國鐵道技術の普及につとめた鐵道省では今回再び同國の需に応じ大宮工場長加藤技師外六名の技術家をロシアへ派遣することになった

○國際橋梁會議 第一回國際橋梁及諸構造會議は今春五月十九日より開催されることになった。因に右は金屬及鐵筋混凝土構造に関する技術の國際的共同研究をなす

目的で1929年1月設立され、現在チューリッヒに本部が置かれている。尙第一回會議には財政其他の關係上日本からは出席しない。

○三浦七郎氏 内務技師の同氏は、かれて東大に博士論文提出中の處、此程工學博士の學位を授與された。論文は「單鍛拱」と題するもので、アーチの中央部に空間を作り特殊の裝置を施す經濟的發明である。

○新土木學會長 今春一月總會開催に當つて任期満了の會長及副會長各一名の後任を決すべく此程諮詢委員會を開いた土木學會では、會長候補に名井九介博士を、副會長候補に大河戸宗治博士を擧げることになつた。

○鐵道省の異動 此程鐵道省に下
の異動があつた。

田中信良氏—鐵道監察官に
富永福司氏—札幌鐵道局長
武居哲太郎氏—名鐵局長に
戸原與四郎氏—電

氣局電力課ヘ
小宮甲四郎氏一東
鐵局兼監督局ヘ
志賀喬介氏一同上
工務局改良課
佐藤鼎氏一同上工
務局ヘ

阿曾沼均氏一同上
工務局保線課へ
高田清氏一同上工
務局保線課へ

池田晋氏一同上工
務局計畫課へ
鈴木愉之助氏一札

電氣課長に
野村盛氏一東京鐵
道局へ
柳生義郎氏一名古
屋鐵道局へ
長田誠三郎氏一仙

鐵福島保線長に
河原直文氏一東京建設所長に
竹股一郎氏一建設局工事課長に
平山復二郎氏一熱海建設所長に
淺間逸夫氏一岡山建設所長に
堀越清六氏一兼長岡建設所長に
長屋修氏一盛岡兼秋田建設所長
高井信一氏一建設局工事課へ
島田賀一氏一米子建設所長に
大石大助氏一東鐵千葉保線所長
黒田武定氏一名鐵保線課長に
後藤宇太郎氏一門鐵保線課長に
關各正慶氏一大阪鐵道局へ
五十嵐三郎氏一仙鐵保線課長に
松田亮治氏一札幌鐵道局へ
沼田政矩氏一東京第一改良へ
佐戸原勤氏一工務局改良課へ
木原英一氏(在倫敦)一命歸朝

x

X

權威ある大倉の工學圖書

(出
版
目
錄
無
料
進
呈)

(出版目録 無料進呈)	權威ある大倉の工學圖書	
長崎敏音	土木工學便覽上卷	價三・八〇
長崎敏音	土木工學便覽下卷	價四・二〇
相澤時正	地下道と地下室	價三・三〇
振替東京二三八番		送料 二二
東京日本橋南茅町		送料 二二
大 倉 書 店		送料 二二
四四電 茅 場		送料 二二
一一六五番町		送料 二二